

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で gpjimu@tenmon.or.jp 宛、なお、原稿も必ず 0422-31-5487迄 Fax でお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

神戸大学理学部地球惑星科学科教官公募

1. 助手 1 名
2. (1) 地球惑星科学科 惑星科学大講座
(2) 神戸市灘区六甲台町 1-1
3. 宇宙科学
4. 宇宙における流体现象のコンピュータ・シミュレーションあるいは惑星系の形成過程に関する理論的研究および教育を行う。コンピュータやネットワークの維持・管理に積極的に参加してくれる人を望む。
5. 博士の学位を有すること、あるいは平成 12 年 3 月末までに学位取得見込みであること。
6. 決定後できるだけ早い時期を希望
7. (1) 履歴書、(2) 研究業績目録（著書、査読のある原著論文、査読のない原著論文、総説その他に区分）、(3) これまでの研究経過および研究業績の概要（2000 字程度）、(4) 今後の教育・研究計画および抱負（1000 字程度）、(5) コンピュータやネットワークに関する経験（1000 字程度）、(6) 応募者について意見をうかがえる人 2 名の氏名と連絡先、(7) 主要論文の別刷またはコピー（5 編以内）
8. 平成 11 年 10 月 29 日（金）必着
9. (1) 〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
神戸大学理学部地球惑星科学科 学科長 中川義次
E-mail: yoshi@whynot.phys.kobe-u.ac.jp
Phone: 078-803-5744 Fax: 078-803-5757

(2) 同上 教授 松田卓也

E-mail: matsuda@jet.planet.sci.kobe-u.ac.jp

Phone: 078-803-5741, Fax: 078-803-5757

10. 封筒には「教官公募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付のこと。
 11. 学科ホームページ：<http://shida.planet.sci.kobe-u.ac.jp>
- ☆ 理学部地球惑星科学科は 2 大講座制（地球科学大講座、惑星科学大講座）をとっています。着任後は惑星科学大講座の宇宙科学教育研究分野に属し、他の分野のスタッフとも協力して広い視野から教育・研究・学科運営にあたっていただきます。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

国立天文台光学赤外線天文学・
観測システム研究系助手

1. 92 巻 3 号
2. 青木和光

国立天文台太陽物理学・
研究系助手

1. 92 巻 3 号
2. 鹿野良平
3. 8 月 1 日

研究会・集会案内

第 24 回木星会議のご案内

愛知県名古屋市中区において天文同好会サザンクロスにより開催されます。

日時：2000 年 2 月 26 日（土）～ 27 日（日）

場所：NTT 松原苑 愛知県名古屋市中区松原 2-8-20

その他詳細は未定です。決まり次第サザンクロスのホームページにて案内するとのことです。

<http://member.nifty.ne.jp/scross/index.html>

ホームページをご覧になれない方等で、開催案内の郵送を希望される方は郵送先をはがき等で下記へお知らせ

ください。

連絡先:

池村俊彦

〒468-0004 愛知県名古屋市天白区梅が丘1丁目1211

TEL: (自宅) 052-806-1158 (土、日及び夜間23時まで)

体には、後日全体の観測結果を送付します。

実行委員会宛てメールアドレス

e-mail: leo99@leonids.net

観測会公式ホームページ

URL: <http://www.leonids.net/>

しし座流星群高校生国際観測会

(Leonids' 99) 案内

昨年実施しました「しし座流星群全国高校生同時観測会」では、参加登録グループは276という数に、観測者数は約3000名にも及びました。その結果、世界的にも例のない観測ネットワークで、しし座流星群をとらえることに成功しました。学校や地域の協力のもとに、自然に触れ、自然について考える機会が得られただけでなく、学問的に意義のある観測を全国の高校生の手で成し遂げることもできました。みなさまのご協力に感謝いたします。

さて今年、日本の高校生観測ネットワークを世界に広げて、地球規模の高校生観測ネットワークを作り、しし座流星群の観測を行いたいと考えています。以下の要領で実施しますので、よろしくお願いいたします。

■共催 天文教育普及研究会、日本天文学会、日本惑星科学会

■後援 文部省・国立天文台、天文学振興財団、日本地学教育学会、東亜天文学会、日本流星研究会 他

■実施日 1999年11月17日(水)夕～18日(木)朝

■参加登録

原則として、観測に立ち会うことができる成人の指導者のいる高校生および同年齢のグループを対象とします。資料請求は、実行委員会のホームページ(<http://www.leonids.net/>)へお願いします。資料請求をして頂くと、最寄の地区事務局から必要書類(5種類)を郵送します。登録は、送付書類に含まれる「参加登録用紙」に必要事項を記入し、各地区事務局(郵送、FAX)へお願いします。登録期間は、9月1日(水)～10月31日(日)です。

■観測方法 観測場所は、個々の参加団体が選定した任意の場所で実施してください。標準的な観測方法は、多くの高校生が「しし座流星群」に眼を向けられるように、特別な機材を必要としない眼視計数観測とします。詳細は「簡易観測マニュアル」を参照して下さい。

■観測報告と結果送付

観測報告は、実行委員会で用意する e-mail アドレス(leo99data@leonids.net)を推奨しますが、各地区事務局宛の FAX、郵送でも受け付けます。報告の締め切りは、1999年11月末日です。この観測会に参加した団

会務案内

1999年度日本天文学会林忠四郎賞受賞候補者および欧文報告論文賞受賞候補論文推薦のお願い

1999年8月20日

社団法人 日本天文学会

標記の2つの賞について、受賞候補者(論文)の推薦をお願いします。両賞の由来と内規については、本誌1996年11月号(会務案内, p. 524)、およびそこに引用した記事をご覧ください。

これらの賞を権威あるものに育てていくのに最も大切なことは、どれだけ立派な研究に対して賞が授けられていくかということです。関連分野の学識経験者、および天文学会会員諸氏からのご推薦をお願いします。

締切は両賞共1999年11月19日(金)。下に述べるそれぞれの要領にしたがって記入した推薦書を、

〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内 日本天文学会宛

に郵送してください。なお、封筒には「林忠四郎賞候補推薦書」または「論文賞候補推薦書」と表記してください。とくに返送等のお申し出がない限り、推薦書類は選考後に破棄します。授賞式は、両賞共、本会年会の通常総会(2000年4月4日、東京大学)にて行います。

日本天文学会林忠四郎賞(第4回)推薦要領

この賞は、林忠四郎博士が1995年11月に第11回京都賞を授与されたのを記念し、「後進の天文学研究を奨励するため」として同博士が日本天文学会に寄付された金額を基金にして設定されたものです。

分野等: 広い意味での天文学(天体物理学、宇宙物理学、他の関連テーマも含む)における独創的かつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授与する。

授賞件数: 原則として各年に1件。

賞状等: 本賞として賞状、副賞として賞牌(メダル)および賞金(20万円)。

推薦書の形式: 表題は「1999年度林忠四郎賞候補者推

薦書」としてください。前年度と同じ推薦をなさる場合も、あらためて推薦書を提出してください。A4サイズの用紙に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補者（被推薦者、連名授賞可）について：氏名（ふりがな）、生年または大学卒業年、現職、連絡先（電話、faxも）
- 2) 授賞対象とする研究の表題
- 3) 推薦者について：氏名（ふりがな）、現職、連絡先（電話、faxも）、被推薦者との関係
- 4) 推薦理由の要旨（300字以内）
- 5) 推薦理由
- 6) 関連する論文のリスト
- 7) 添付資料として、推薦に関連して最も重要な論文のコピー（複数可）

これまでに受賞された方々は、第1回（1996年度）は「宇宙背景放射ゆらぎの理論」の研究業績に対して小玉英雄・佐々木節の両氏（連名）に、第2回（1997年度）は「重力多体問題シミュレーションによる恒星系力学の研究」の研究業績に対して牧野淳一郎氏に、第3回（1998年度）は「銀河系内超高温プラズマおよび原始星からのX線放射の発見」の研究業績に対して小山勝二氏に贈られました。

日本天文学会欧文報告論文賞（第4回） 推薦要領

この賞は、良い論文が Publications of the Astronomical Society of Japan (PASJ) に投稿・出版されるのを奨励するために設定したものです。なお、本賞の選考委員会は、林忠四郎賞選考委員会が兼ねることになっています。

対象論文等：原則として過去3年以内に Publications of the Astronomical Society of Japan に出版された論文のうち、独創的で天文学分野に寄与の大きい、特に優れた論文の著者（共著の場合はすべての各共著者）に授与する。

授賞件数等：原則として1年に2件以内。

賞状を授与する。

推薦書の形式：表題は「1999年度欧文報告論文賞候補推薦書」としてください。A4サイズの用紙に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補論文について：論文題目、著者名、所属、出版された巻、ページ、発行年
- 2) 論文著者について：氏名（ふりがな）、連絡先（電話、faxも）
- 3～7) 林忠四郎賞推薦の場合と同じ

これまでに、第1回（1996年度）は "Discovery of a Peculiar SU UMa-Type Dwarf Nova ER Ursae Majoris", by Taichi

KATO and Chatief KUNJAYA, PASJ, vol. 47 (1995), pp. 163-168 の論文に対して加藤太一・カチーフ、クンジャヤの両氏（連名）に、第2回（1997年度）は "Distribution and Dynamics of Molecular Gas in the Galaxy M51. III. Kinematics of Molecular Gas", by Nario KUNO and Naomasa NAKAI, PASJ, vol. 49 (1997), pp. 279-306 の論文に対して久野成夫・中井直正の両氏（連名）に、第3回（1998年度）は "The Gas Imaging Spectrometer on Board ASCA (PASJ 48, 1996, PP, 157-170)" の論文に対して大橋隆哉氏他23名（連名）に贈られました。

第18期日本学術会議会員候補者選考に関する公示

日本天文学会選挙管理委員会は、2000年7月に改選される表記の会員候補者（第4部・天文学）の選挙を行います。この選挙は、日本天文学会・日本学術会議会員候補者推薦内規（以下内規という）に基づいて行うもので、下記の通り公示します。

記

1. 選挙権を有するものは1999年10月1日の時点における正会員である（内規第4条および内規注）。
2. 被選挙権者は日本学術会議法により、1. 日本国籍を有する者、2. 会員在任期間が通算9年未満の者である（内規第5条）。
3. 候補者の推薦を受け付ける。受け付け期間は1999年9月21日～1999年11月7日（選挙管理委員会まで必着）とする（内規第7条）。
4. 被推薦者の公表は、投票用紙送付時に、推薦書を同封する。
5. 上記有権者には11月12日に有権者名簿、投票用紙および投票用封筒を発送する。
6. 投票期間は1999年11月13日～1999年12月12日（選挙管理委員会まで必着）とする。
7. 投票は単記・無記名とする（内規第8条）。
8. 選出された候補者名は、2000年2月20日発行の天文月報3月号（第93巻第3号）に発表する。
9. 投票の詳細については、投票用紙の発送に際してこれを通知する。

以上

1999年9月20日

選挙管理委員会 委員長 川村静児

注1：選挙の詳細については、天文学会会員名簿に添付の「日本学術会議会員候補者推薦内規」を参照して下さい。

日本天文学会評議員候補者選挙に関する公示

評議員選挙管理委員会は、2000年の春季総会に推薦される改選評議員（任期2000年～2003年）候補者の選挙について、定款第25条及び評議員選挙施行細則（以下細則という）に基づき、下記の通り公示する。

記

1. 選挙権及び被選挙権を有する者は、この公示の時点における正会員である。ただし非改選評議員（任期1996年～1999年）は被選挙権を有しない（細則3条による）。
2. 上記有権者には、有権者名簿及び投票用紙を送送する（細則4条による）。

3. 投票は、10名以内の無記名連記とする（細則5条による）。
4. 投票期間は、1999年11月13日（土）から1999年12月12日（日）（必着）までとする。
5. 選出された候補者の名簿は、2000年2月20日発行の天文月報（93巻3月号）にこれを発表する（細則7条による）。
6. 選挙の詳細に関しては、上記2の有権者名簿及び投票用紙の発送に際して、これを通知する。

以上

1999年9月20日

選挙管理委員会委員長 川村静児

星空市場

天文月報の題字について

〈質問〉

天文月報の表紙のタイトルは1908年4月の創刊号から使われているようですが、誰が書いたものですか。「報」の字は常用漢字とは違いますが、ただし昔の中国の書家の書いたものと同じ字があります。朝日新聞のタイトルも常用漢字表にないので問い合わせたところ、これは商標として使っているとのことでした。月報のタイトルも同様と考えてよいのでしょうか。

佐藤明達（東京都）

〈お答え〉

天文月報の題字に関する質問を何人かの方から受けました。私自身あまり意識していなかったのですが、言われてみると少し変わっています。そこで編集事務局の山崎さんがバックナンバーを調べてくれました。1982年12月号に当時編集長をされていた成相恭二先生が、『75年目を迎えた天文月報』と言う題で月報の題字について

触れられていました。その中で天文月報第一号（明治41年4月発行）の表紙が紹介されており、題字は左右の順序こそ反転しているものの、全く同じ文字が使用されているとのこと紹介されていました。しかし残念ながら誰の筆によるものかについては不明であるとのことでした。そこでこの問題はやはり成相先生にお伺いするとヒントがあるのではないかと思います、お電話でお話をお聞きしました。その際には不明なままだったのですが、その後成相先生から関口直甫先生にご連絡いただき、題字について明らかとなりました。この字は第一号の発刊の辞を書かれた寺尾 壽先生によるものとのことでした。この際に寺尾先生が天文月報の英文名である The Astronomical Herald の名前も発案されたとのことでした。再度成相先生と関口先生にご協力いただきましたこと、お礼を申し上げます。

天文月報の題字は現在 Web ページ上のロゴとしても使用されています。このロゴを月報原稿を個人的に Web ページ上に掲載されている方から、月報のページへのリンクボタンとして使用させていただけないかとの問い合わせも頂きました。原稿掲載と共に月報編集部まで一言ご連絡いただければ幸いです。

上野宗孝（天文月報編集長）

編集委員	上野宗孝（編集長）、大橋正健、小野智子、斎藤芳隆、田村元秀、土橋一仁、内藤統也、和田桂一
平成 11 年 9 月 20 日	発行人 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒 162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷
定価 700 円（本体 667 円）	発行人 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
TEL: 0422-31-1359（事務室）／0422-31-5488（月報・欧文編集）	FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ http://www.tenmon.or.jp	月報編集 e-mail: gpjimu@tenmon.or.jp